

ユズ 幹腐病

病原菌:カビの一種(ラクナム アブノルメ)

発生の概要

- 1980年頃から発生が目立ってきた。
- 徳島県那賀川上流地域、高知県の山間部、和歌山県古座川町など降水量の多い地域で被害が大きい。
- 多発生地域ではユズ以外に温州ミカン、スダチ、ダイダイ、ポンカン、ジャバラ等でも発生。

病気の症状

- 枝幹部がすり鉢状にくぼみ、木質部まで腐りこむ。
- 病患部表面にはきのこ(子のう盤)が発生する。
- 表皮下に外部からは見えない小さな初期の病斑が見られる。



→樹皮を剥ぐと→



防除対策

- 主幹部の病患部を削り取り、癒合剤(バッチレートなど)を塗布し治療する。
- 剪定痕なども病原菌の進入門戸となるので癒合剤を塗布する。
- 発芽前にボルドー液を枝幹部にも散布し、コケの着生しないようにする。
- コケは枝幹部を湿潤に保ち病気の発生を助長する。
- そうか病、黒点病防除時には枝幹部にも殺菌剤を散布する。
- 苗木、未結果の若木も成木と同様に殺菌剤を継続散布する。
- 徒長枝を利用して健全な枝に更新する。
- 重症樹は改植する。



以下の関連ページもご覧下さい。

「ユズ凹陷性幹腐症」を「ユズ幹腐(みきぐされ)病」に改名

(果試ニュースNo.85)

問い合わせ先 徳島県果樹研究所 TEL08854-2-2545、FAX08854-2-2574

[ホームページへ](#)